

七ツ塚遺跡発掘調査現場説明会

多治見市本庁舎建設地（多治見市音羽町）に所在する七ツ塚遺跡において、現在発掘調査を実施しています。本調査の成果及び現場の状況について、一般の皆様に向けた現場説明会を開催します。

日 時 令和8年4月25日（土）13時～14時

集合場所 多治見市役所駅北庁舎玄関前（多治見市音羽町）

※公共交通機関でお越しください

申し込み不要ですので、直接お越しください。

七ツ塚遺跡は、JR 多治見駅北側の音羽町1～2丁目周辺に所在する縄文・弥生時代から古代・中世を主体とする集落遺跡で、平成18年度、多治見市が進める土地区画整理地業に伴う試掘調査により、その存在が初めて明らかになったものです。遺跡の詳細な範囲は不明ですが、これまでに行った試掘調査の状況から約10ヘクタールと市内では最大級の遺跡と考えられます。遺跡は、土岐川右岸の沖積地に立地し、かつては水田が広がる地域でしたが、戦後急速に市街化が進み、現在は厚い盛土がなされました。大部分が住宅、店舗、駐車場などに利用されています。



中世の灌漑水路跡の木杭（第7次調査）

また、昭和30年代頃まで、この一帯の水田には直径3～4



弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡（第1次調査）

mの「塚」が7箇所存在したと言われ、最近までそのうち2基の位置が確認できました。「七ツ塚遺跡」の名称は、この塚の存在から命名したものです。区画整理事業の進行に合わせて、これまでに14次の発掘調査を実施してきました。古代の住居跡等の検出や、石器・土器等の出土など、市内でも有数の成果が得られています。今年度は新庁舎建設予定地での第15次調査を実施します。